

2019年10月7日

文部科学大臣 萩生田光一様
文化庁長官 宮田亮平様

仙城 真
(大阪市在住、医師)

文化庁による、あいちトリエンナーレへの補助金交付中止について

前略、

上記につき、申し上げたきことあり、一筆啓上させていただきます。

一旦内定された補助金交付が中止されるという沙汰は、企画者にとっては極めて深刻なダメージとなることは十分に承知されておられると思います。文化事業は困難な資金繰りをしながら実行されるのが常であるためです。

法手続き的に交付中止の理由が立ったとしても、道義的にはそれは普通には通らないことでしょう。

今回の交付中止の理由として、事業の実現可能性・継続可能性への疑義が挙げられているようですが、企画の実現なり継続なりに支障を生じたのは主催者の落ち度なのではないでしょうか？ 卑劣極まりないテロ予告への対処は事業主催者の責務なのではないでしょうか？ それは公権力が実効的におこなわねばならないことだと考えます。ある程度、そのような軋轢が生じることは予想の範囲だったはずが、公権力の地位にある人物が検閲に該当する疑いのある発言をしてテロ予告などの妨害活動を勇気づけるなどという、およそ文明国では考えられない非常識な事態が予測できたのでしょうか？ またテロに対して公権力がこれほどに対策能力を欠如している（あるいは内閣官房長官の意を忖度してサボタージュをした疑いもあり）という絶望的事態をまで予測に入れ企画書に記載することが主催者の責務なのではないでしょうか？ 理解しがたいことです。

今回の交付中止の決定は、撤回されるべきだと考えます。

まず何をおいても、この決定は狭量で不寛容、文明国の政府のふるまいとして不細工すぎる。とても格好悪い。少々物議を醸しそうな表現企画に対しても太っ腹な包容力をみせてこそ、文明的な国家の政府の態度と云えます。今回の決定は、文明国基準で考えるととても恥ずかしいものです。

加えて、このような前例を作ってしまうと、あらゆる文化事業に萎縮を招くことに繋がると考えられます。なにかトラブルが起こったら兵糧攻めにされるという環境で、のびのびと創意が発揮される文化が生まれるのでしょうか？ ありえません。あなた方の狭量な決定が、この国における独創の芽を摘んで、この国を衰退させていく。文化における萎縮は、それだけにはとどまらない。自由に独創をふくらませる社会の雰囲気は萎縮知することで、産業における創意も必ずしぼめます。少なくとも世界を変えるような大きなイノベーションは望めない日本を作ってしまう、世界に遅れをとっていくことになりましょう。これは誇張ではない。文化に向かう精神の萎縮を軽く考えてはならない。

よく考えてみてくださることを希求いたします。

草々